

赤い羽根福祉基金「社会テーマ」助成

## 第5回 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成

## 活動報告書

NPO法人愛伝舎

活動名：四日市市河原田地区連合自治会と在住外国人のための多文化共生交流事業

## 1. 活動の背景

NPO法人愛伝舎は2005年に三重県鈴鹿市で活動を開始し、2022年4月に四日市市河原田町へ事務所を移転しました。河原田地区はこれまで外国人居住者が少なかったものの、近年は増加傾向にあり、外国人人口比率が5%を超えていました。

愛伝舎は設立以来、主に南米系日系人への支援を中心に活動していましたが、近年ではアジア系の技能実習生や高度人材など、多様な背景を持つ外国人との関わりも増えています。

移転先の四日市市河原田地区では自治会活動が活発であり、桜祭りなどの地域行事への外国人参加の呼びかけや、人権啓発活動の講師依頼を受ける機会も増えました。

こうした状況を踏まえ、地域に根ざした多文化共生活動を進め、「顔の見える関係づくり」を目指して本活動を実施しました。

## 2. 活動の目的と解決したい課題

本活動は、外国人が急増している地域において、地域住民と外国人が互いに理解し合い、安心して暮らせる環境を整えることを目的として実施しました。

## (1) 目的

- ・地域に根ざした多文化共生の実現
- ・外国人が地域社会の一員として参加・貢献できる関係づくり
- ・日本語学習や日本文化体験を通じた交流の促進

## (2) 課題

- ・四日市市南部では日本語教室が少なく、外国人の学習機会が限られている
- ・外国人が日本人と交流する機会が少なく、孤立しやすい
- ・地域住民の中には、外国人への理解や接点が乏しく、不安を感じる人がいる

## 3. 活動及び回数

- ①日本文化体験及び情報提供事業・地域住民との交流会の実施：年数回
- ②日本語教室・相談業務：毎月1回

## 4. 活動一覧及び参加者数

実施日	内容	参加者	ボランティア	スタッフ
12月21日	まんぷく大作戦・みかん狩り(BBQ交流会)	60	5	3
1月18日	書初め・日本語教室①	5	-	3
2月15日	もちつき・日本語教室②	7	1	3
3月8日	お茶会・日本語教室③	25	3	3

3月22日	日本語教室④	5	-	1
3月29日	お花見・日本語教室⑤	9	-	3
5月17日	防災講座・日本語教室⑥	15	6	3
6月29日	日本語教室⑦	4	-	2
7月27日	水難事故防止セミナー・日本語教室⑧	16	6	3
8月3日	祭り参加（浴衣体験）・日本語教室⑨	7	-	1
8月17日	日本語教室⑩	7	-	2
9月14日	日本語教室⑪	7	-	1
9月21日	日本語教室⑫	6	-	2

## 5. 活動の報告

### ① 日本文化体験及び情報提供事業・地域住民との交流会の実施

四日市市南部では外国人の人口が増加していましたが、地域住民と外国人が直接接する機会はまだ少ない状況でした。そのため、地域住民は外国人がどのような目的で日本に住み、何をしているのか把握できず、不安を感じることがありました。一方で、外国人も日本人との接点が少なく、交流したくても声をかけることができず、「顔の見える関係」を築くには十分ではありませんでした。

このような課題に対応するため、活動では外国人に日本文化を体験してもらう場を提供し、地域住民と外国人が交流できる機会を設けました。これにより、外国人は日本の文化や社会を理解するきっかけを得ることができ、地域住民も外国人の存在や役割を知ることで、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くことができました。その結果、地域住民は外国人も地域社会を支える存在であることを認識し、外国人も地域に居場所があると感じることができました。また、毎年地域住民主催で行われている活動やイベントに外国人が参加し、交流や協働の機会を持つこともできました。

活動には、地元自治会の自治会長や民生委員、消防団など地域のキーパーソンも参加し、地域自治会や消防団、四日市海上保安部と協力して、地域行事や防災セミナーを実施しました。外国人の参加者も、防災や水難事故など身近な安全に关心を持ち、積極的に取り組みました。特に、消防団と共に防災セミナーは新聞に掲載され、四日市海上保安部との連携が生まれ、その後「水難事故防止セミナー」を共催するきっかけとなりました。

近年、外国人の水難事故が多発しており、昨年は四日市市でも来日して間もない外国人の若者が事故で亡くなる事例がありました。そのため、再発防止の取り組みが強く求められていました。今回のセミナーはテレビでも取り上げられ、多くの人の周知につながったと考えられます。また、四日市海上保安部だけでなく全国の海上保安部との連携にも発展し、各地での外国人向け安全啓発活動にもつながりました。今後は、毎年このセミナーを継続して開催していく予定です。

### 【活動の様子】

実施日	内容
12月21日	まんぷく大作戦（BBQ）・みかん狩り
	<p>7か国の人々が参加し、にぎやかな会となりました。ブラジルの方が焼く、本格的なシュハスコ（BBQ）は参加者からは恒例のみかん狩りも実施し、秋を楽しみながら会話が弾み、国籍をこえた笑顔のあふれる温かな交流が深まりました。</p> 

1月 18日	日本文化体験「書初め」
	<p>初めての書道とのこと、最初は少し緊張した様子でしたが、筆を手に取ると次第に集中して取り組み、「この緊張感が心地よい」と話していました。普段は漢字に苦手意識があるとのことでしたが、楽しみながら挑戦でき、良い体験になったようです。書道を通して気持ちが和み、活動の後にはさまざまな話をすることができました。</p>
2月 15日	日本文化体験「もちつき」
	<p>お餅つきを行い、あんこ、きなこ、いそべ、菜餅、大根おろしなど、さまざまな味を楽しみました。参加者は地図を見ながらお互いの国の話や食文化について交流しました。</p> <p>「ここは家族みたいです！」という声もあり、心温まる時間となりました。自治会や民生委員の方々にも参加いただき、地域とのつながりが深まる良い機会となりました。</p>
3月 8日	日本文化体験「お茶会」
	<p>お茶の先生方にご協力をいただき、3年目の開催となりました。穏やかで和やかな雰囲気の中、“一期一会”的出会いを楽しむひとときとなりました。参加者からは茶道や着物に強い関心を持ったようで、「習ってみたい」との声も聞かれました。地域の皆さんにもご参加いただき、愛伝舎が地域の交流の場として少しづつ広がっていることを実感しました。</p>
3月 29日	日本文化体験「お花見」
	<p>河原田地区の自治会主催の春祭りに参加しました。桜はまだ五分咲きでしたが、地域の方が出店されている屋台グルメを味わいながら、楽しい時間を過ごしました。自治会の役員の方々とも顔なじみとなり、交流の中で会話を楽しむ様子が見られました。地域の行事への参加は地域の一員として大切なことであると感じました。</p>

## 5月 17日 | 防災講座

河原田地区の消防団の協力で防災講座を開催しました。AED の使い方や災害時の備えを学びました。母国で心臓マッサージを学んだ方が多いものの、AED の使用は初めてという方がほとんどで、設置場所や使用する状況について多くの質問が出ました。備蓄はこれまで行っていなかった方が多く、多くの準備が必要なことに驚いていました。顔の見える関係づくりが、安心・安全な地域づくりにもつながっていくと感じました。



## 7月 27日 | 水難事故防止セミナー

海上保安庁からの依頼で、外国人向けの水の事故ゼロセミナーを開催しました。近年、外国人の川や海での事故が増加しており、いざというときの行動や安全対策を学べる貴重な機会となりました。ライフジャケットの着用や安全な



泳ぐ場所の確認など、具体的な注意点を知ることで安全意識の向上にもつながりました。行政機関が外国人とつながるルートを求めているという事がわかり、今後も連携をしていきたいと思います。

## 8月 3日 | 日本文化体験「浴衣体験・地域の祭り」

「着物を着てみたい」という要望に応え、浴衣体験を行いました。体験後は四日市祭りにも参加し、「似合ってるね！」「写真撮ろうか？」と声をかけてもらうなど、日本人との交流にもつながり、楽しかったようです。祭りを通じて地域の歴史や文化を知ることで、地域への理解と愛着を深めるきっかけとなり、地域とつながることができました。浴衣は SNS を見た方からの寄付の物です。



## ② 日本語教室・相談業務の実施

四日市市南部では外国人が増えていますが、日本語を学べる教室はまだ少なく、学びたい方は遠くまで通わなければならない状況です。そのため、日本語の力を伸ばすのが難しく、日本人との交流も限られてしまい、孤独を感じる方も多くなっています。特にコロナ禍以降は、精神的に不調を訴える方も増えており、外に出て活動することの大切さが高まっています。

こうした状況を受けて、地域で外国人向けの日本語教室を開くことにしました。教室では、生活に必要な日本語や身近な話題の会話を学び、困ったことを日本人に相談できる力を育てます。特に日本語については、会話を通じて自分の考え方や気持ちを表現する力を伸ばし、日本人と躊躇せずに話せることを目指しました。また、安全で安心して生活・仕事をするためのルールや習慣についても学びました。

さらに、相談業務も行い、日本で生活したり働いたりする中で起きるさまざまな困りごとに対応しました。相談内容は、ビザや社会保険、税金などです。必要に応じて、名古屋入管や行政書士、市役所、四日市国際交流センターなどにつなぎ、適切に対処することができました。



## 6. 成果と今後の課題

### (1) この事業の成果

この事業を通して、行政機関と外国人をつなぐハブとしての役割を果たすことができました。さらに、今年だけでなく来年度以降も継続して開催できる見込みもあり、当法人だけでなく他地域への展開にもつながる成果となりました。

地域住民からは、「外国人の方々が地域活動に参加してくれてうれしい」、「日本語で会話するきっかけができた」などの声が聞かれるとともに、外国人からは「普段話すことができない日本人と話すことができた」、「(桜まつりが)あることも知らないし、自分では絶対参加できない。参加できてよかった」、「(お茶会参加して)日本文化を体験することができてよかった。機会があれば勉強したい」という声が聞かれました。

また、地域での活動を通じて、外国人の方々の防災意識や社会参加への関心が高まりました。災害時の避難方法や日常生活での安全対策について学ぶ機会を持つことで、自分や家族の安全を守る意識が向上したことが見られます。また、地域の行事や活動に参加することで、住民同士のつながりを感じたり、自分も地域の一員として関わっているという実感を持つようになりました。参加者からは、「日本を理解したら日本での生活が楽しくなった」「安心して暮らせるようになった」といった声が多く聞かれ、日常生活における自信や満足感の向上がうかがえました。こうした体験を通して、外国人の方々が地域社会に溶け込み、互いに支え合いながら安心して生活できる環境づくりにつながってくれればと思いました。

さらに、この活動を通じて、地域の日本人住民が外国人住民に自ら近づき、声をかけ、交流する姿が見られるようになりました。これまで「近寄りがたい存在」と感じていた外国人に対して、実際に接することで互いの人柄や生活を理解し、自然な共感が生まれました。こうした体験を重ねる中で、地域の中に「外国人を理解しよう」「共に生きよう」という温かい気持ちが広がり、共感力を育てることができたと思います。この1年の活動を通じて、地域社会における共生の基盤となる土台づくりが進みました。

また、この活動に参加してくれた人たちが、それぞれのコミュニティにつながりを広げ、学んだことや情報を周囲に伝えてくれています。その結果、地域の中で外国人と日本人をつなぐ「多文化共生のサポーター」として活躍する人が少しずつ増えています。今後も、こうしたサポーターを育て、地域全体で支え合える仕組みを広げていくことが大切だと感じています。

### (2) 課題と今後必要となる取り組み

四日市市南部では外国人住民が増える中で、地域とのつながりづくりや相互理解の促進が重要な課題となっています。外国人の方が日本の文化や地域の生活に自然に触れ、日本人との交流を通じて安心して地域社会に溶け込めるような体験や対話の機会を継続的に提供することが求められています。

同時に、地域住民側にも外国人との関わりを深める機会を設け、外国人を「支援の対象」としてではなく、「地域の構成員」「同じ社会の一員」として受けとめる視点を広げていくことが必要です。さらに、自治会や行政機関との連携を強化し、「地域住民 × 外国人 × 行政機関」が協力しながら共生社会の基盤

を築いていくことが今後の大きな課題です。

一方で、外国人住民の構成も変化しており、これまで多かった南米系日系人に加えて、近年はアジア系の外国人住民が増えています。南米系の方々は地域活動への参加が進んでいますが、アジア系の方々は地域との接点がまだ少なく、地域参画の機会を広げることが新たな課題となっています。

また、行政機関による外国人住民への直接的なアプローチ方法が十分に確立されていないことも課題のひとつです。こうした中で、当団体には行政機関からの協力依頼が増えており、今後は複数の行政機関が参加する合同相談会などを開催し、行政と外国人住民が直接つながる機会を増やしていく必要があります。

さらに、外国人と日本人が日常的に会話し、互いの文化や生活を理解し合えるような場づくりも重要です。現在は、外国人と地域住民が顔を合わせる機会がまだ少なく、そのことが心理的な壁を生む要因にもなっています。外国人住民が地域の情報を得にくく、活動に参加しそびれてしまうこともあります。こうした状況を踏まえ、自治会や民生委員など地域の担い手と協働し、外国人住民を「課題」ではなく「地域の力」として捉え、その可能性を引き出すことが求められています。

今後は、これまでの成果を生かしながら、次の3つの柱を中心に取り組みを進めていきます。

#### ①外国人住民の地域参画促進

アジア系を中心とした外国人住民が地域活動に参加しやすい環境を整え、外国人自身が主体となってイベントを企画・運営できるよう支援します。外国人住民が「自分たちの地域を自分たちでつくる」という意識を持てるような活動を展開します。

#### ②行政との連携強化

行政機関が外国人住民と直接つながる機会を増やすため、合同相談会や多機関連携イベントを開催します。行政・地域・外国人が協力し合う仕組みをつくり、情報共有と支援体制を強化します。

#### ③地域交流の場づくり

日本人と外国人が気軽に会話し、生活や文化について話せる「日本語広場」を開催します。特に地域との接点が少ない外国人にとって、安心して話せる場となるよう工夫し、相互理解と信頼関係を深めていきます。

これらの取り組みを通じて、多様な背景を持つ人々が互いに支え合い、共に生きる地域社会の実現を目指します。外国人住民が地域の一員として自信を持ち、日本人住民もまた多文化を自然に受け入れられるような、温かいつながりのあるまちづくりを進めていきたいと考えております。